

平成 28 年度 大学院工芸科学研究科 学位記授与式
学長告辞

本日、修士と博士の学位を取得されました皆さん、誠におめでとうございます。
京都工芸繊維大学を代表し、心からお祝い申し上げます。

また、皆さんをこれまで、支え、育ててこられたご家族の皆様をはじめ、
本日駆けつけていただいた関係者の方々に対し、心からお祝いを申し上げたい
と思います。

京都工芸繊維大学は、昭和 63 年に大学院を改組して工芸科学研究科を設置
し、これまでに、8983 名の修士号と 1009 名の博士号の学位を授与してまいり
ました。

本日皆さんには、修士学位 8984 号から 8999 号まで、課程博士甲第 807 号か
ら 820 号まで、論文博士乙第 204 号から 205 号までの学位を授与致しました。
皆さんの研究業績は本学の知的財産に加えられ、提出して頂いた学位論文は広
く人々に公開され、それぞれの分野における新たな展開のため、また技術革新
や産業創出のために活用されます。さらには、皆さんに続く後輩の研究のため
に利用されます。

学位を取得された皆さんには、今後、特定の専門領域で研究テーマを深く
極めることに主眼を置いた研究だけでなく、広い視野に立って、他の研究者と
の共同作業を心がけていただきたいと思います。そして自らの研究や仕事が、
社会的にどのような役割を持つのか、社会にどのような影響を及ぼすのか、
科学者として、技術者として、一人の人間として、考えてください。

皆さんは、すでに約 20 年にわたる勉学と研鑽を積んでこられた結果、本日
の学位取得に至ったわけであります。人生の活動期の半分近くを費やして、
学位を取得されたことになります。その意味では、学位取得は人生の一大イベ
ントであり、自らの人生の方向を定める一大事業であります。

博士号を取得された皆さんは、世界中のだれよりもその研究主題に通暁して
います。したがって、自分の研究をもっともよく評価できるのも、もっとも
厳しく評価できるのもあなた自身をおいて他にはいないのです。その意味から
も、これまでの人生を振り返り、自分の研究テーマとこれからの人生、社会に
おけるキャリアパスと研究生活について、改めて考えていただきたいと思います。

ところで、世界の現状をみてみますと、世界は今、少し疲れているように思
います。だからこそ、私たちには野性が必要です。知性は飽和状態にあります
が、野性が欠乏しています。私たち一人一人が自らの劣化をくい止めるため
には、野性のエネルギーが必要です。衰弱した野性を知性で補完しようとしても、
うまくいきません。逆です。劣化した知性を野性で元気づけることが求められ
ているのです。

かつて、建築家のコルビュジエは、近代化していく社会の光と影を対比的に検証しながら、社会の矛盾を解決するためには、建築か、はたまた革命か、という挑発的な問いを投げかけました。多くの人は、自分は専門家になって社会を変えていきたいと考えます。しかし、世界の現状を変えていくためには、専門家になる前に、革命児でなければなりません。すべての領域において、私たちは専門家である前に、革命児でなければ力強く人生を生き抜くことができないし、また世界の現状を変えていくことも出来ません。

もちろん、最高学府を修了した皆さんは、知的でなければなりません。しかし知性で野性を抑圧してはなりません。我々は知的な人間でなければならないと同時に、野性の動物のように、素早い動きとクレバーな判断が求められています。研究の世界だけでなく、ものづくりの世界においても、ものづくりに潜む知性というもの、手に宿る知性というものを信じ、明晰な論理性と精緻な技術力を、身体化するように研鑽してください。

最高の学識をもって、社会で活躍しようとする皆さんに申し上げたいのは、「知性と野性」、「専門家と革命児」、「科学技術と人間性」について、自らの考えを深く問い直していただきたいということです。かつてインドの賢人、マハトマ・ガンジーは「七つの社会的罪」を提唱しました。その一つに「人格なき学識」は社会的罪である、同じく「人間性なき科学」は社会的罪であるというメッセージがあります。

科学技術の進展の速度は、20 世紀を通じて勢いを増し、人間のコントロールを超えるまでに至りました。人間性なき科学とは、科学技術の進展が人間の幸福を置いてきぼりにして自動運動に陥っている状態を意味します。それを主導し、支えている科学者や技術者の知識と技能は、知識のための知識となり、技術のための技術となり、人間の身体や感情を伴わない人格なき学識に過ぎなくなっています。こうした盲目的で科学技術に対する奴隷のような研究活動は、グロテスクであるばかりでなく、危険であることに気がつかなければなりません。大学院を修了されるにあたって、本学における研究活動は、「ヒューマン・オリエンテッド・テクノロジー」の理念のもとに実施していることを思い起こして頂きたいと思います。

京都工芸繊維大学は、これからも皆さんの活躍を応援し続けます。また皆さんが卒業後も大学を愛することを心から願っております。母校への愛情は、自らの人生とこれからの活動に自信と誇りを与え、より高い課題に取り組む勇気を与えてくれます。皆さんは、私たち教育者の誇りであり、皆さんの活躍は、京都工芸繊維大学が世界一の大学であるということを世界に示す証左となります。近い将来、皆さんと再び共同研究が行える日が来ることを楽しみにしています。

平成 28 年 9 月 26 日
京都工芸繊維大学長
古山 正雄